千葉明徳短期大学保育創造学科

2016. VOL.9.MAR

月歩学歩

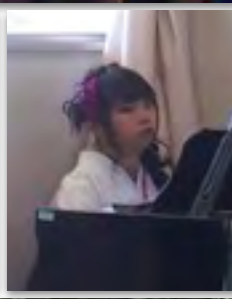
“月日を歩き、学んで歩く”　明徳の「今」を伝える月刊誌「げっぽがっぽ」

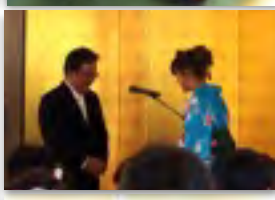
そつぎょう

特集　卒業

- 第45回卒業式　（P.4–13）
- 卒業パーティー　（P.22–23）
- ご退職　ありがとう！さよなら！（P.16–17）
- １年間の実習での学びについて（P.14–15）
- 教員からのおすすめ（P.18–19）
- 研修生　学びの成果報告会（P.20）
- !hot news!（P.21）
- 編集後記　この１年をふりかえって（P.24）

卒業





千葉明徳短期大学 第45期生 卒業パーティー
「一期一会 ～すべての出会いに感謝して～」

３月15日（火）、第45回生となる２年生が卒業を迎え、それぞれの道に旅立ちました。卒業式で代表として語られた言葉は、それぞれの思いあふれるメッセージでした。次ページからご紹介しますので、お読みください。また、卒業パーティーのテーマは「一期一会～すべての出会いに感謝して～」という、彼ららしい、まわりの人への感謝の伝わる時間でした。私たちも、45期生の皆さん一人ひとりと出会えたことに感謝しています。次ページからは、月歩学歩学生委員の取材を含め、式で話されたメッセージをご紹介します。

☆今号は、取材・印刷・折り込みまで
学生委員と一緒に取り組みました☆

特集　第45回卒業式

今号は、月歩学歩学生委員が、卒業式と卒業パーティーに取材班として潜入し、４名中２名は、受付など式やパーティーの手伝いを、あとの２名は、写真撮影やインタビュー取材を行いました！　取材した２名が、式を取材した時に受けた思いを書き記しました。

明徳・取材許可証
1年　安部 あすか

卒業式の受付が始まると、卒業生が着々と学校に着き、写真撮影や取材に対応していただきました。私にできるか心配でしたが、卒業生から積極的に「撮って～」とカメラにピースしてくれるなど、笑顔でいっぱいの姿が印象的でした！

また、卒業式の開式に向けて、会場でのリハーサルや受付の下準備などを行っているのを見ることができました。受付や会場までの流れがスムーズに動いていたことから、下準備が必要だということを改めて感じました。

卒業は悲しいという思いが強かったので、明るく晴れ晴れした卒業生の姿を見てとても驚きました！

明徳・取材許可証
1年　岩井 凜

卒業式は終始温かい雰囲気の中で行われ、卒業生がたくさんの人に支えられ送られていました。私が卒業する時も、こういう雰囲気で送られたいと思いました。

式での卒業生は笑顔で、堂々とした姿で証書を受け取っていました。証書授与の後に行われた在学生による送辞（卒業生を送ることば）も、卒業生による答辞（回想とメッセージ）も、先輩方への感謝や、お世話になった周りの人、仲間への感謝でいっぱいの気持ちが込められているのが伝わってきました。

式での先輩方の姿を見ながら、私もあと１年で成長して、あのようになれるのだろうか、と思いました。そして式が終わり、先輩方から「来年度の１年生は任せた」と言われると、急に寂しくなりました。けれども、先輩方には安心して卒業していってもらいたかったのと、先輩方から直に言われたことで、「任せてください」と伝えることが出来ました。

回想とメッセージ

佐藤 愛里

日差しのうららかさに、春の到来の喜びを感じる今日、私たち45回生は、千葉明徳短期大学を卒業します。

この卒業という日を迎えられていること、この場に立って皆さまに感謝の気持ちを伝えられることに、心から喜びを感じています。私たちのこの門出に、このような式を挙げていただき、ありがとうございます。また、この日を迎えるまで見守り支えてくださった皆さま、本日ご出席下さいました皆さまに、卒業生を代表して感謝申し上げます。

私は、明徳が大好きです。入学してから今日という日まで、私にとって明徳は、「学校」というよりも、「第二の家」のような場所でした。学校のない休みの日は、「早く学校に行きたい！」とまで思っていました。それは、悩んでいる時にはさりげなく声をかけてくださったり、実習後には「おかえりなさい」と温かく迎えてくださったりした先生方や事務の方々、一緒に笑いあい支えあえる仲間たちがいたからこそ、思えたことでした。そんな温かい明徳だったからこそ、笑顔で明るく元気に毎日を送ることができました。

そして、私にとってこの２年間は、「なりたい私」に近づくための時間でした。夢に向かう強さを身につけた時間でもありました。２年間を通して、私はさまざまな面において成長したと自覚しています。何より、嫌いだった自分を、好きな自分に変えられました。

入学する前の私は、自分の本当の思いや考えは内に秘めながら過ごしていました。場の空気を読み、言い合いになることを避けるために、結局「私が何も言わなければいいのだ」という考えに行き着いていました。そして気づいたときには、自分と相手との間に自然と壁を作るようになっていました。そんな、自分とも相手とも向き合わず、適当にその場を過ごし、逃げているような自分が嫌いでした。

しかし、この明徳に入り、そんな嫌いな自分に終止符を打つことができました。明徳の授業は、グループワークや話し合いが多く、自分の思いや考えを相手に伝えなければ何も生まれず、始まらない。そんな機会が多くありました。

その中で、自分の考えを伝えると、私の話に耳を傾けて聞いてくれる、相槌を打って興味を持ってくれる、気になることがあれば問いかけてくれる、私の意見を理解しようと受け止めたうえで、またその人の意見を返してくれる、そんな先生や仲間がいました。「伝え方は考えなければいけないけれど、自分の思いを相手に伝えていいのだ」「皆でひとつのものをよりよくするために、意見を伝え合うことは必要なことなのだ」と思え、徐々に自分の意見を伝えられるようになりました。そして、私は自分のことを好きになれました。

また、私たちは、卒業５年後の夢を思い描く「学びの創造プラン25」をつくって入学しましたね。実習でさまざまな子どもや保育者と出会ったことで、その夢が具体的になった人、夢への意志が強まった人、夢自体やその形が変わった人…、一人ひとり、それぞれにさまざまな変化があったと思います。

私は、そのような出会いの中から、自分のなりたい保育者像を描き続けました。そして、保育者に対する思いを強めました。 特に大きかったことは、憧れとなる保育者との出会いです。その先生は、子どもたちが何気ない会話の中で、「僕、○○先生のことが好きなの」「私も○○先生のことが大好き」と話してくれるような、子どもから愛されている先生でした。そして、いつもキラキラとした笑顔で子どもと関わり、子どものどのような発言・思いも、適当に流したり否定したりせず、しっかりと受け止めたうえで、その思いに対して先生自身の言葉を返す人でした。また、それは子どもに対してだけではなく、実習生である私に対してもそうでした。

他の実習でも、さまざまな保育者と子どもを見てきました。私は、子どもも大人も、自分という一人の人間が自信を持って夢に進めるよう、相手の考えをしっかり受け止め、苦手なことは責めるのではなく支え、得意なことはもっと伸ばせるような、そんな人になりたいと思っています。このような「なりたい私」を描くことで、私は夢に向かっていく強さを持って、ここまで来ることができました。

私は春から、夢であった幼稚園の先生になります。すでに、就職先での研修も始まっています。思い描いてきた保育者像を持っていても、これから、夢とは違う現実や自分に対して幻滅することもあるかもしれません。さまざまな壁が立ちはだかるかもしれません。

しかし、私は、その壁は必ず乗り越えられるのだという希望と、その先にある夢を忘れないでいたいと思います。夢は、変わってもいいと思います。でも、自分に対する希望と夢を忘れずにいる強さは持っていたいと思っています。そして、今のこの気持ちを忘れず、「なりたい私」を描き続けて進んでいきます。

今、保育者不足が問題になっていますが、私は、子どもたちや、保育者になりたいという夢を持った人たちが、憧れられるような、希望を持てるような、そんな保育者になりたいと思っています。

これから２年生になる１年生の皆さん。２年生になるにあたり、どのような思いを抱いているでしょうか。将来に対する不安や、夢に近づく第一歩への期待など、さまざまな感情を抱いているかもしれません。昨年の今頃の私は、将来に対面する怖さと不安から、正直逃げだしたい気持ちを持っていました。しかし、その不安に負けず、なりたい自分に向かう強い気持ちが、自分の成長に繋がりました。また、将来に対する不安を抱え、それぞれの夢を模索しているのは、自分ひとりではありません。ひとりではない。仲間がいる。そのことを忘れずに、未来に進んでいってください。

最後に、私たちの夢を支え応援してくださった方々へ。

先生方。先生方の授業はやる気となり、先生方の言葉は自信となり、そして、先生方の存在が、自分を大きく成長させてくれました。先生方の支えがあったからこそ、この明徳を好きになれ、自分を好きになれ、辛いことも乗り越えることができました。ありがとうございました。

事務の皆さま。暑い時期も寒い時期も、明徳を過ごしやすい環境に整えてくださるだけではなく、就職活動や実習のことなど、たくさんのサポートをしてくださり、ありがとうございました。

そして、この明徳に入学させてくれた両親。私が挫けそうになってもずっと傍で支え、見守ってくれたこと、どんな時でも一番の味方でいてくれたことに、感謝します。

卒業生の皆さん。みんなと出会えて本当によかったです。みんながいたから、笑って毎日を過ごすことができました。みんなと過ごした２年間が、言葉だけでは言い表せられないほどの思い出でいっぱいです。私はこの45回生、みんなのことが大好きです。たくさんのありがとうを送ります。

この明徳で過ごし、たくさんの人と出会い、たくさんのことを学べたことに誇りを持っています。これからも支え合い、それぞれの夢を描き変えながら、進んでいきましょう。

お世話になった皆さまに感謝の気持ちと愛を込めて

平成28年３月15日　第45回卒業生代表　佐藤 愛里

卒業生を送ることば

染谷 祐奈

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

２年間というとても短い期間で、先輩方は様々な経験を通してたくさんの知識を吸収しながら力をつけてきたと思います。私たち後輩から見て、先輩方が一生懸命学ぶ姿はとても輝かしく、勇気を頂きました。きっとこれまで何度も壁にぶつかってきたのだろうと思います。１年生は先日、保育所と施設で４週間の実習を終えたばかりです。初めての経験を前にとても緊張し、実習直前は不安な気持ちでいっぱいでした。ある日の授業で、先輩方から実習の話をお聞きし、今自分が不安に思っていることを相談する機会がありました。そこで、レポートの書き方や、実習の楽しさ、子どもや施設の利用者さんとの関わり方のアドバイスを頂きました。しかし、話を聞くことで多少の不安は解けたものの、やはり前向きに考えられない気持ちもあり、先輩に「大丈夫だよ、きっと楽しいよ」と言われても、何が楽しいのかわからないところもありました。

いざ実習に出てみると、保育所では、目の前の事しか見えていなく、自分の隣で喧嘩が起きていることに気づかなかったり、食事の援助の際に担当のこどもが味噌汁をこぼしたことにも気がつきませんでした。まだまだ視野が狭いなと感じました。失敗や反省をすることもたくさんありましたが、４週間の実習を行う中で、保育者からアドバイスを頂いたり、子どもたちと関わる中で楽しいと感じることもありました。

子ども達が笑顔で、毎朝挨拶をしてくれた時には元気をもらい、今日も一日頑張ろうと思えました。そう感じることにより、反省を活かし、翌日の実習に繋げることができました。そのような経験を通して、自分自身の学びになっていくのだと思います。実習を終えた今、そう考えると、先輩の「大丈夫だよ、きっと楽しいよ」という言葉の意味がわかった気がします。先輩方は、勉強や実習、就職活動で慌ただしい日々だったと思います。その中で、私たち１年生の背中を押してくださりありがとうございました。とても感謝しています。これからは、２年生が私たちにしてくれたことと同じように、自分たちがこれまでに学んできたことを後輩に伝え、同じ保育を学ぶ仲間として気持ちを共有していけたらと思います。

また私はこの短大に入学し、新しいことに挑戦したいと思い学友会に入りました。行事を計画したり、みんなを引っ張っていく大変さを感じました。特に学園祭の準備では、２年生は実習前で忙しい日々にもかかわらず、出店する団体や教員、物品を貸し出す業者とのやりとりに必要な資料の作成をしてくれました。私たち１年生は入学したばかりで仲間関係ができておらず、まとまりがなかったり、他人に仕事を任せてしまいトラブルの連続でした。他の役員にもついてきてもらえず、協力することの重要性や先頭に立つ難しさを知りました。このことがあり、行事とは先輩や友人と協力して作り上げていくことが大切なのだと思いました。私が２年生になったら、先輩方がされていた仕事をきちんと理解して、話し合いの場を作り、自分の言葉と先輩の残してくれた資料をもとに後輩に伝えていきたいと思います。私たちだけでは楽しい学校生活は送ることができないので、１年生とも一緒になって学校を盛り上げていきたいです。

卒業生のみなさんは、今日でこの千葉明徳短期大学から巣立っていきます。一人ひとり、歩む道は違っても、みなさんはこの学校で一緒に学んできた仲間です。この先、不安なこともあると思いますが、その時にはこの大学で仲間と過ごし、学んだ日々を思い出してみてください。私たち後輩は先輩方を応援しています。

本日は、本当にご卒業おめでとうございます。

平成28年3月15日　在学生代表　染谷 祐奈

学長式辞

金子 重紀

卒業生のみなさん、保護者のみなさま、卒業おめでとうございます。

皆さんの学年は、私が千葉明徳短大で初めて全員に対しての授業をした学年です。以前は、現代社会論のみを受け持っていて、十数人の方だけとお話しするだけでした。そして、今年度から学長を拝命し、二年間、みなさんの成長を見てこられたと思っています。多くのみなさんと、挨拶を交わしたり、話をしたり、冗談を言ったりすることができました。ですから、それだけ、思い入れのある学年です。

さて、私がみなさんと最初に出会ったのは、憲法の授業でした。私自身がみなさんに日本国憲法を教えることで、多くの事を学ぶことができました。それから、楽しかったです。

その憲法の授業で私がみなさんに伝えたかったのは、二つの事でした。一つは、まだまだ人類は未熟ということです。最初の授業で、女性が平均25歳で子どもを出産したとすれば、聖徳太子の時代から約700年56世代、明治維新、つまり身分制のない社会ができてから150年６世代、女性が選挙権を持って70年、３世代しかたっていないということ。少なくともみなさんのひいじいちゃん、ひいばあちゃんが20歳の頃は、男女平等ではなかったのです。ですから、自由とか平等とか言っても、その本当の意味を私たちは知っていないのではないか、これから考えていかなければならないのではないかということです。その流れの中に若いみなさんがいて、私たちの世代以上に「自由」や「平等」の内容を発展させてほしいということを伝えたかったのです。

もう一つは、そういう流れの中で、形式的な「自由」「平等」から実質的な「自由」「平等」へ（「国家からの自由」だけでなく「国家による自由」の出現）。今の時代は、福祉国家に到達したのです。福祉国家というのは、全ての人が幸せに暮らせる社会を目指す国家のことです。

ですから、福祉国家は、人類の歴史の中での最先端の考え方、社会の在り方なのです。当然、福祉に携わる人は、時代の最先端の仕事をしていることになります。教育もそうです。教育は、次世代を作る仕事です。この先どんな社会が作られるかは教育によって決まると言っても過言ではないのです。私の伝えたかったもう一つの事とは、福祉や教育に携わる人は、時代の最先端の仕事をしているとの自負・誇りを持ってほしいということです。もちろん、みなさんの中には、一般の企業に勤める方もいらっしゃいます。でもその方もこの短大で学んだこと、子どもたちの育ちの保障との考え方は、きっとこれからの生き方に大きな基本となっているはずです。

卒業されたみなさんは、私たち千葉明徳短期大学の教職員とは、対等な社会人としての関係になります。私たち教職員も、この短大で、学生と向き合っていく中で、社会と向き合っていきます。みなさんもそれぞれの職場で社会と向き合ってください。そして、もしよかったら、みなさんが考えたこと、悩んだことをこの短大に持ち寄ってください。共に対等な社会人として一緒に悩み、考えましょう。私たちもみなさんに相談できたらいいなと思っています。外から見た千葉明徳短期大学についての意見をもらって、より良い大学を作っていけたらいいなと思っています。

千葉明徳短期大学は、いつでもみなさんを待っています。

最後に、アメリカ先住民（いわゆるインディアン）の名言に、次のような言葉があるそうです。

あなたが生まれたとき周りの人は笑って、あなたが泣いたでしょう。だから、あなたが死ぬときはあなたが笑って、周りの人が泣くような人生を送りなさい。

人々のために働き、未来を作っていく仕事のできる福祉・教育の道は、この言葉に最も近い生き方のできる道ではないでしょうか。

以上、私からの送る言葉をもって式辞といたしたいと思います。

理事長祝辞

福中 儀明

卒業証書を授与された108名の皆さん卒業おめでとうございます。またご家族の皆様方もおめでとうございます。

皆さんは千葉明徳短期大学の第45回の卒業生になります。二年間の努力の甲斐あって、きょうの卒業を迎えることができたわけであり、その学修内容を生かし、これからのそれぞれの進路先での一層の活躍を期待しています。

さて、今の世の中の話題の中心のひとつに保育があります。こどもが保育所に入れない、ということが問題になっています。そこでこれに関係する話をこれからします。

現在ＪＲ千葉駅ビルが新築工事中です。３階がコンコースになり改札口ができます。その上に４階・５階があり店がはいります。そして５階には店のほかに保育所も作る計画です。保育所を経営する人はいませんかという募集が出たので明徳も応募しました。

明徳は現在、幼稚園ひとつ・こども園ひとつ・保育園ふたつ、社会福祉法人千葉明徳会として保育園ふたつを持っています。特に本八幡駅保育園は千葉県内最初の駅型保育園、浜野駅保育園は千葉市内最初の駅型保育園として運営しています。ですから明徳は千葉駅の保育園として選ばれるのにふさわしい保育理念と保育のノウハウを持っていると自信を持って応募しました。

その結果は――落選です。なぜ落ちたのか、その理由は明らかにされていないのでわかりません。でも私は次のように推測しています。駅ビルの中の場所を借りて保育所を開くわけですから場所代・テナント料が必要です。これは他の店やレストランと同じです。そして駅ビルから提示されたテナント料は月125万円でした。これだけ払えば経営は赤字です。そんなに出すわけにはいかないから、本八幡駅・浜野駅を基準に考えて月80万円を提案しました。だからおそらく、駅ビルの言うとおりに月125万円出します、という応募者があって、そちらに決まったのでしょう。

しかし明徳の試算では125万円では赤字です。赤字にしないためには給与を低くする、それしかありません。そんな保育所が採用されたのではないかと私は危惧しています。

もうひとつ問題があります。西口にあるパチンコ店です。パチンコ店は風俗営業法により学校や保育所からはある程度の距離が離れていないと開店できません。繁華街ではこの距離が50mです。駅は広いから西口のパチンコ店と東口に近い保育所とは充分に離れており法的には問題ありません。しかし、千葉駅には保育所があります、パチンコ店もあります――では保育所にとってイメージ悪いでしょう。こどもを保育所に一時預けして親は一日パチンコをしているなんてことになったら最悪です。

ですからもし明徳が千葉駅に採用されていたら、私の次の仕事はパチンコ店に出て行ってもらうように交渉することだと考えていました。これについて私は千葉市長と市会議員に文句を言ったことがあります。詳細は説明しませんが彼らはあまり頼りにはなりません。

そういうわけで、保育所を作るのは結構大変です。待機児が多いから、急いで、たくさん作れということになっていますが、数を増やせばいいというものではないということはみなさんおわかりでしょう。こどものためのいい保育をすること、ブラック企業などと言われないようなまともな給料を出すこと、そして今言ったいい環境であること、これら全部がそろわないといけないのです。

最後に「いい保育環境を作ること」についてみなさんにひとつ提案しておきます。駅型の園庭のない保育所、オフィスビルの中に入ったやはり園庭のない保育所も増えています。保育士は近くの公園まで出かけて少しでも子どもたちを自然に触れさせようと苦労していることと思います。もちろんこれは必要なことですが、どの保育所にも・幼稚園にもこども園にも平等に必ずある自然に触れることも忘れないで利用していただきたいと思います。

窓から外を見れば空があります。空を動く雲を眺め、観察し、絵を描く。雲ほど形の変化と色の変化の大きい自然は他にないといえます。そして空の向こうには宇宙があります。公園のように歩いていくことはできないけれど広さだけは無限の宇宙ですからこれも利用していただきたい。

ここで私の尊敬する科学者レイチェル・カーソンの「センスオブワンダー」の一節を引用します。

「その夜が満月で、渡り鳥の声がにぎやかだったら、また、こどもが望遠鏡や双眼鏡を使いこなせるほどの年齢になっていたらもうひとつの冒険の道が開かれます。満月の前を横切って飛ぶ渡り鳥を見る楽しみです。

まず、すわり心地のよい場所に腰をすえて、望遠鏡の焦点を月に合わせます。そして鳥の飛んでくるのを待つ間に月の表面を観察してみましょう。それほど倍率の高くない望遠鏡や双眼鏡でも、月面の細かいところまでかなりよく見えて、天文好きのこども達を夢中にさせてくれます。

そして、やがて、天空の孤独な旅人たちが暗闇から姿を現し、再び暗闇へと月面を横切っていくのを眺めることができるでしょう。」

カーソンはこどもが自然と触れ合うために望遠鏡と双眼鏡が必要だと言っています。私はこれを認めて、保育園や幼稚園に望遠鏡と双眼鏡を運び出前天体観察会をしています。迎えに来た保護者はこども以上に感動しています。皆さんもそれぞれの園で園長に頼んで望遠鏡と双眼鏡を買ってもらうようにしてください。どんな機種を選んだらよいかは、私に相談してください。

もうひとつ、目に見えない小さなところにも自然があり、宇宙があります。だから明徳の保育園も幼稚園も顕微鏡を備えています。

望遠鏡・双眼鏡・顕微鏡みっつそろえて宇宙と触れ合う、こんな保育をしていただきたい、これが理事長の願いです。

皆さんがこれから出て行く世の中、ほかにもいろいろ問題があるでしょう。しかし、教育・保育という仕事の尊さは永遠のものです。子どもの数が減れば逆にその重要性がますます大きくなっていきます。

子どもを愛して、子どもの幸せのために力を尽くしてくれることを期待し、理事長よりの卒業のお祝いのことばといたします。

1年生！

１年間の実習での学びについて

いしい あきひと
石井 章仁

本学の１年生は、４月５月に「保育体験」を行い、７月からひと月に一度ずつ幼稚園での実習（計６日）を行う。また、年度末である１月～２月には、保育所及び社会福祉施設において計４週間の実習を行っている。

多くの学生は、不安や緊張感を抱えながら実習に臨み、慣れるにしたがって子どもや利用者とのかけがえのない時間を過ごすように変化する。実習は、学生にとって非常に刺激的な体験となり、学内で学ぶこととは全く違った学びが得られる。それは、同時に学生の良さや課題、普段の生活、価値観や意欲など、様々なものを浮かび上がらせる機会ともなる。本学では、これらの実習と実習とをつなげ、実習間の学びとその継続性を特に大切にしている。

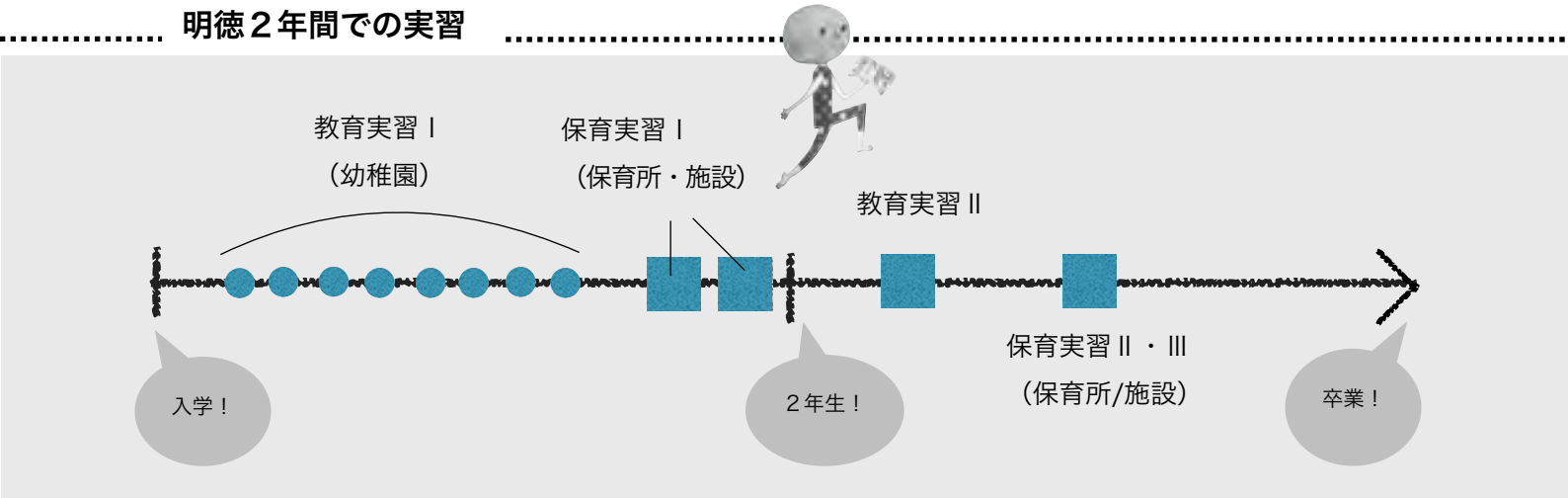
▪Aさんの実習（教育実習）

Aさんは、穏やかな性格で常ににこやかに振る舞い、出された課題には真摯に取り組む学生である。幼稚園での実習では３歳児クラスに配属された。４月から子どもとかかわることで、徐々に意欲を高め、11月に部分実習を行った。同じクラスに配属されているBさんとともにしっかり準備をし「子どもが野菜のスタンプを画用紙に押す」活動をした。Aさんは、活動を説明するためにスケッチブックに絵を描き、子どもの前で説明した。活動では、多くの子どもが1枚の制作を終えると部屋から出て他の活動に移る中で、２人の男の子がいつまでもその活動を続けた。画用紙の裏面までびっしりスタンプで埋め尽くし、夢中になって取り組んでいた。普段はそのような場面をあまり見ない子どもだったので、その姿に衝撃を受けたようだった。

午後になると、その活動を他のクラスの子どもにも味あわせたいという保育者の意図で、園庭に野菜スタンプのコーナーを設けてくれた。そこでは、午前中その活動をしなかった他のクラスの子どもたちを中心に、多くの子どもが代わる代わるスタンプ遊びをしに来た。１日を通してつながる活動と子どもの姿を学んだ。

この活動をビデオに撮らせていただき、振り返る際にこの映像を皆で見た。特に、最後まで夢中になって取り組んだ２人のこと、ある程度設定された午前中の活動と午後の自由な雰囲気の中での取組みの意味、１日を通してこの活動を継続しようとした保育者の意図、２人の実習生の思いなど、意見を交換し、教員からも解説を加えた。Aさんにとってこの体験はかけがえのないものになった。

明徳２年間での実習



しかしAさんは、その後の実習ではつまずくことがあった。保育所ではあまりうまくいかず、教員の実習訪問時に涙を見せた。園の評価もＡさんの課題を明晰にしていたが、良さを取り上げてはいなかった。施設実習では、利用者とかかわりを持ち、それなりに充実しているようではあったが、それほど「意味のある」体験にはなっていないように思えた。

このように、Aさんは実習場所によって異なる姿が出ていたが、彼女の言動が実習によって異なったのではない。２人残った子どもの心情に気づけたのは、保育者のちょっとした言葉や言葉かけがあったからであり午後園庭にコーナーを設定し「１日を通した活動」になったきっかけを作ったのも保育者の意図だった。その間、自分の役割がわからず、子どもに言われるままに砂場に遊びに行ってしまったため、活動が終日続く意味や君たちをコーナーで待っている子どもがいると戻るようアドバイスしたのは教員だった。また、映像で自身の姿を省みたことや活動全体を意味づけられたのは学びの仲間や教員のかかわりが功を奏した。ここまでしてはじめて“体験”が“経験”となり“学び”となる。

本学で大切にしている「体験からの学び」は、自身が現場で体験したことを省察し、その行為の意味を様々な方法で考察することを目標にしている。学生は、２年間という短い期間で、実習や様々な体験から何かを学び、それを自身の経験に変えてゆく意義や手段を識る。「実習生として」求められることは、その学生の“できること”に最大限挑戦し、相対的に“できなかったこと”ではなく出来たことを自分で認められること。自身の行為や子ども・利用者の行為の意味に気づくこと。保育や援助の一部として自身の活動がなされることに気づくことであろう。

ご退職　ありがとう！さよなら！

このたび、４名が明徳をご退職されることになりました。
ご本人からのお言葉と、学生からのメッセージです。

５年で卒業することになりました山野です。でも、卒業の実感がありません。道半ばという感じが非常に強いです。

それまで、児童相談所など福祉現場でしか働いた経験しかない僕にとって、教員になることは新鮮ながらもかなり最初ハードルが高い作業でした。特に、明徳は保育士・幼稚園教諭養成の学校です。当たり前ですが、社会福祉関連の専門の学校ではないのです。学生のみなさんも、保育士や幼稚園教諭になるために明徳の門をくぐります。そんな学生のみなさんにいったい何をどう伝えたら、福祉の考え方や積極的な意味が伝わるか？最初の１、２年は教材研究ばかりを毎日毎日やっていた思い出があります。５年たっても状況はそれほど変わっていませんが、学生のみなさんの授業後の感想やときどき研究室に遊びに来てくれる学生の声に励まされようやくここまで来ました。

ただ、この５年で興味関心が広がっていったことがあります。保育の社会的な意味とか価値とかということです。これは、明徳で働かなければ気づかなかった点かもしれません。そうしたテーマを深めたり調べたりすることを自分の課題として次の学校で働こうかと思っています。道半ばですが、明徳の５年が僕をワン・ステージあげてくれたと思っています。ありがとうございました。

入学してから１年間でしたが、児童福祉施設に興味があり、山野先生の授業「社会福祉」「家庭支援論」を受けることが楽しみでした。差別についてもよく考えるようになりました。いつもこちらに問いかけるように授業が展開され、自分の中で新しく気づくことや、こんな事もあったなと振り返ることがありました。授業を通して学んだことがあります。それは、虐待の連鎖には虐待をする側が過去に虐待を受けていたことが背景にあり、その中で育ったために、そういった態度でしか子どもと接することが出来ないということが一つにあるということです。そして、被虐待児がかわいそうであるなら、虐待をする側もかわいそうであり、なんのケアもされて来なかったことを考えると、一概に悪い人だと言えないということです。このように、山野先生から沢山のことを学びました。ありがとうございました。（鍬田 春華）

10年以上前、私は学生として明徳の門を初めてくぐりました。そして様々なご縁から、またこの明徳短期大学へ戻って来ました。明徳で働いているこの数年間、本当にたくさんの出会いがありました。学生、教職員の方々、育ちあいのひろばたいむで出会った子どもたちや保護者の方々。学生の頃も今も変わらず、明徳は本当にたくさんの人たちと出会える場所だということを改めて感じました。皆さんと関わる中で、もう一度保育の現場へ戻りたいと思うようになり、今、保育の現場で働いています。自分の力不足や考え方の甘さに悩み落ち込むこともありますが、子どもたちが見せてくれる笑顔や行動が保育の楽しさを教えてくれています。子どもたちと共に保育者としてより一層成長していきたいです。

２年間は長いようで本当にあっという間です。この明徳で体験する様々な出会いを大切にし、たくさんのことを学んでいってくださいね。

今までありがとうございました。久我さんは、育ちあいのひろばたいむに遊びに来る子ども達との関わりや保護者との会話をしている姿がとても素敵で、私たち学生にとって目指している保育者の鏡のようでした。１年生は、あまり関わる機会が多くありませんでしたが、人によっては相談に乗ってもらったりしていただきありがとうございました。私たちにとって大切な思い出の１ページになりました。

これからも新しい場所で頑張ってください。お世話になりました！！（栗山 恵里奈）

明徳短大の専任教員として、12年間お世話になりました。専任教員になるキッカケは、学生の皆さんでした。当時、非常勤講師としていくつかの科目を担当していました。専任にお誘いはいただいていたのですが、皆さんご存知の通り（？）人と関わるのが苦手な私は、授業以外で学生さんと関わるのは…と、敬遠していました。

けれど、ある日の明徳での授業で、子どもの頃の遊び場に実際に行き、そのことを題材に考え合っている時、学生さんが自分たちで学びを深めていく姿を目の当たりにしました。「あっ、だから○○が必要なのか」「じゃあ、△△についても調べてみよう」「そうすると、私は＊＊だと思う」などと自分たちが体験したことを基に、何かに気づき、これまでとは違った角度での考えを伝え合っていました。それも、１グループだけでなく、多くのグループで。私はこの姿を見て、やっぱり学ぶって面白いな、明徳の学生さんたちの学びをもっと見たいと思って、専任教員になることを決めました。そういう意味では、新２年生のこれからの学びが見られないことはとても残念です。ごめんなさい。

学生さんの気づきや考えには、保育の学びにつながる大切なことがたくさんあります。学生さんのレポートは、私が授業の内容を考えるための貴重な資料でした。

これまで色々な場面で皆さんから刺激を受け、影響を受け、支えていただきました。本当にありがとうございました。また、一回り成長した皆さんにお会いできるのを楽しみにしています！

片川先生は授業で、実際の育児で感じたことなどを楽しそうに話してくださって、聞いている私たちまで笑顔になりました。卒業した先輩方も含めて、学生一同、先生の授業や優しさのある保育への考え方が大好きだったと思っています。これからもずっと尊敬しています。まだまだ課題も多い私たちでしたが、片川先生が私たちの良い面を見つけては伸ばしてくれました。おかげで、自分に自信を持つことができ、保育にかかわる時の自分に安心感を持つことが出来ました。片川先生からご指導頂いたことを大切に、なりたい保育者を目指して頑張っていこうと思います。本当にお世話になりました。ありがとうございました。（岩井 凜）

14年間、勤めさせていただいた明徳を離れることになりました。その間、学生のみなさん、卒業生のみなさん、教職員のみなさんにはたくさん助けて頂き、おかげさまで、充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

14年分、様々なものが詰まっている研究室の片付けは、想像以上のものでした。楽しかったこと、大変だったこと、いろいろな出来事やいろいろな人の顔が次々と浮かんできて、片付けが思うように進みませんでした。

わたくしごとですが、明徳にきた翌年の、結納の翌日、授業中、私の薬指の指輪をみて学生が目をキラキラさせ、その数日後の講堂での全体授業の際、２人の学生が連弾で結婚行進曲を弾いてくれ、みんなでお祝いをしてくれました。育休明け、学校に戻ると、学生から相談があると呼び出され、教室にいくと、サプライズのおかえりなさい会を開いてくれました。明徳では、私の人生の節目節目に、一緒に喜んでくれる学生がいてくれました。とても幸せなことだったと思っています。

私は、これから保育者になるために頑張っている学生と向き合うこの仕事が大好きです。しかし、年度末、あまりにも家を留守にすることが多かったためか、ついに、次女には、素敵な大人の条件に、「先生ではない人」と言われてしまいました。苦笑してしまいましたが、いつか、きっと、わかってくれる日がくると信じています。

４月からは、私も新しい環境で頑張ります！みなさんも一人ひとり、また、頑張って下さい！お互い、それぞれの環境で頑張って、またいつか、笑顔で再会しましょう！

今まで、ありがとうございました。

１年間ありがとうございました！実習ではいつもエピソードにもとづいてアドバイスをくださりありがとうございました。子どもが起こす行動の意図は幅広いことや、子どもへの関わりが沢山あることを初めて教えていただいたのも金先生です。初めての指導案では苦戦して何度も訂正してもらいました。また一人ひとりのエピソードを話し合う授業では真剣に保育について考えました。皆で夏にバーベキューをしたりと楽しかった思い出もあります。退職されてしまうと聞き驚きました。新しい職場でも明るい金先生で頑張ってください！（安部 あすか）

教員からのおすすめ

本学図書館には、各教員の専門分野や関心が一目瞭然の「推薦図書コーナー」があります。この連載では、その一端のみならず、教員から皆さんへの「おすすめ！」を紹介していきます。

第６回目は、明石先生から皆さんへのおすすめです。

PROFILE

教員名

あかし　げん
明石 現

担当科目

音楽表現とピアノⅠ、現代社会論、保育方法演習他

メッセージ

明徳の専任になって三年の月日が経ちました。大学（因みに、音楽ではなく文学部です）卒業後、オーストリアのウィーンに四年間ギター留学し、帰国後、約二十年間は国内外でギターの演奏活動や指導をしてきました。十年程前までは、自分が大学教員になるなんて夢にも思っていませんでしたが、フィールドワーク・スペイン、福祉の音プロジェクト（手話合唱）等の活動を通して、私のこれまでの経験や出会いを学生の皆さんに還元できればと考えています。

「二百年の子供」

著者：大江 健三郎

ノーベル文学賞を受賞した作家・大江健三郎さんの作品というと、少々身構えてしまうのは私だけではないと思います。そんな大江文学の中で、作者自身が「私の作品の中で唯一のファンタジー」と述べ、幅広い世代に親しまれている作品が今回ご紹介する『二百年の子供』です。

小説家を父に持つ三人兄弟「三人組」は夏休みに、父の故郷・四国を訪れます。そして、その地の森に佇む「千年スダジイ」と呼ばれるシイの木の中で、行きたい場所を願いながら眠るとその場所に行ける、という言い伝えを耳にします。「三人組」は、その「タイムマシーン」で120年前の村人、103年前にアメリカに渡った初めての日本人の女子留学生に会いに行きます。そして最後に「三人組」が選んだのは2064年の未来。そこで彼らが見た光景とは・・・。

「三人組」は過去・現在・未来の二百年の時空を行き来します。それは、それぞれがバラバラに存在しているのではなく、一続きのものであり、その中の変化し続ける「いま」に私たちは生きています。時代や地域、あらゆるものは一続きであり、個人と世界も一続きです。それを原点に他者と関わることを想像してみると、何か新しい未来が見えてくる気がします。

また、この本の中に出てくる「壊されることのない、せんさいな教養」ということばが心に残っています。教養というのは、働き手になるために必要な知識ではなく、子ども時代には誰もが持っていたであろう自由な精神を源とする創造力なのかもしれません。

私たち日本人は「せんさいな教養」を忘れてはいないでしょうか。かのヘレン・ケラーは言っています。「ものごとを鑑賞するには、理解よりも共感することが必要である。学者の一部は、花も根も茎も生長の過程も全て知っているのに、天国の露に濡れたみずみずしい花の美しさはわからない・・・」と。

こんなことを日々考えながら、学生の皆さんと共に時を過ごしたいと思います。

教員からのおすすめ

本学図書館には、各教員の専門分野や関心が一目瞭然の「推薦図書コーナー」があります。この連載では、その一端のみならず、教員から皆さんへの「おすすめ！」を紹介していきます。

第７回目は、鶴田先生から皆さんへのおすすめです。

PROFILE

教員名

つるだ　しんじ
鶴田 真二

担当科目

メディア・コミュニケーション、オーラル・コミュニケーション他

メッセージ

本はいつも（…とは言えませんが）私にとっては未知の世界や考え方を教えてくれ、時には荒んだ心の癒しにもなります。今、私は食べ物が物語の中心になっている小説を読み漁っていますが、今回は（次回もあるのかはさておき）、私がここ数年抱き続けている関心事について書かれている本をご紹介しています。ぜひ、ご一読を。本の内容に関係することですが、皆さんはどのような社会に生きたいですか？　私は人々が互いに支え合う社会（誰もが差別されない・無視されない・排除されない社会）に生きたいと思っています。私はこの先、どこでどのくらい生きることができるのか知りませんが、自分にできることをどこででもいつまでも自分の仕方でしていきたいと思っています。綺麗事でしょうか…　私には絶対に無理なことでしょうか…　そもそもどうでもいいことでしょうか…

『壁の涙　法務省「外国人収容所」の実態』
「壁の涙」製作実行委員会（編）

「収容所」という言葉を聞いた時、皆さんはどのような光景を思い浮かべるでしょうか？

私が「おすすめ」としてご紹介する本は、最近入手した『壁の涙　法務省「外国人収容所」の実態』です。

「収容所」とは、外国籍の人々が収容されている収容施設の１つで、長期収容（原則、無期限）を想定した東日本入国管理センター（茨城県牛久市）、大村入国管理センター（長崎県大村市）、西日本入国管理センター（大阪府茨木市、2015年９月末閉鎖）があります。また、短期収容を想定した「収容場」もあり、こちらは地方入国管理局（８か所、例えば東京入国管理局）・支局（７か所、例えば成田空港支局）のことで全国に15ヶ所あります。成田空港支局の収容施設では、同空港で上陸を拒否された方が一時的に収容されています。いずれの施設も法務省が管轄しています。

『壁の涙』では、東日本入国管理センターに収容されている/されていた外国人、特に、「自分の国に帰ることもできず、日本にいることもできず、収容施設で日々を送っている人たち。国境と国境のはざまに落ちてしまって身動きの取れない人たち」が、収容所で/出所後にどのような生活を送っているのかについて、学生、助祭、教員、元被収容者、医師、弁護士といった様々な立場から描写/解説されています。

今から約２年前、世界の難民に関する本を読んでいたところ、生まれ育った場所から日本に逃れてきた難民が、日本で難民として認められることがいかに難しく、過酷な生活を余儀なくされているかを知り衝撃を受けました。それからすぐ、自分に何かできることはないかと思い、東日本入国管理センターに通い始め、四六時中監視された日々を過ごしている被収容者との面会を続けています。そこで私が常に思うことは、もし私が被収容者の立場に置かれたらということです。

収容所・被収容者の実態はどのようなものか。ぜひ、『壁の涙』をお読みください。また、時間のある方は一度、収容所へ足を運んでみてはいかがでしょうか。「百聞は一見に如かず」だと思います。

こちらもおすすめ～関連書籍・DVD～
● 根本かおる『日本と出会った難民たち 生き抜くチカラ、支えるチカラ』 ● 宗田勝也『誰もが難民になりうる時代に 福島とつながる京都発コミュニティラジオの問いかけ』 ● 入管問題調査会（編）『入管収容施設 スウェーデン、オーストリア、連合王国、そして日本』 ● 移住労働者と連帯する全国ネットワーク（編）『移住者が暮らしやすい社会に変えていく30の方法』 ● 社会福祉法人さぽうと21『外国出身者への支援 36年目からの挑戦』 ● 『壁の涙 入管で起きたこと～暴行と強制送還～』（DVD） ● 『日本から追放される難民申請者～強制収容と強制送還の知られざる実態～』（DVD）

研修生　学びの成果報告会

片川 智子

皆さんが授業を終えた後、月２回程夜に卒業生の授業が行われていたことを知っていますか？　「研修生」といって、保育現場で保育者として働きながら、更に学びを深めていこうという取り組みです。研修生は、保育後に学校に集まり、保育実践の振り返りや、お互いの勤務先の見学、県外の保育現場の見学などの研修を、１年間行ってきました。

去る３月22日（火）、その１年間のまとめを勤務先の先生方や短大教員に報告する、成果報告会が行われました。日々働きながら、このような研修を続けていくことは本当に大変なことです。2015年度は、研修生６名、全員が保育者１年目という中、一人ひとりが精一杯頑張り、考え、気づいたことなどを、自分の言葉で報告していきました。

この研修生の１年間の取組みと、まとめの報告からは、日々の保育実践をしっかりと記録し、そこから考えていくことの大切さを考えさせられました。2016年度は２名が研修生となります。

興味があったら、夜の授業、覗いてみてください！

氏名	研修先	タイトル
井上 和幸	明徳土気保育園	「全体を見ること」の捉えなおしと難しさ
大槻 洋平	明徳やちまたこども園	子どもとの関わりから得た、「子どもを観る」という感覚
神崎 大匡	富貴島幼稚園	私が思う、遊べているとは？
鈴木 利美	美光保育園	主体性という言葉に振り回された私
森 誉大	千葉明徳短期大学附属幼稚園	研修生としての１年間で見えた自分自身の課題
森 麻世	あさひ保育園	私が困ったと感じたYちゃんとの関わりを通して私の大切にしたい保育を考える

！hot news！

new movements of this month in meitoku

！今月の明徳速報！

New パンフレットに向けて撮影中！

2016年度の新しいパンフレット作成に向けて撮影中！
４月中旬に完成予定です。　お楽しみに♪

♪Open Campusを開催しました♪

３月27日（日）、平成28年度第１回目となるオープンキャンパスを開催しました！
４月から新２年生となる学生たちは、高校生の前に立って明徳の話をしたり、受付やスリッパの片付けをしたりと、表の仕事も裏の仕事も、心を配りながら行ってくれました。次は４月23日（土）です！　皆さんもオープン・キャンパス・スタッフ、してみませんか？！

卒業パーティー「一期一会～全ての出会いに感謝して～」

充実したひと時となるパーティーも、それを実行する人がいたからこそ開くことができました。テーマ決めから運営まで、みんなをまとめ、細かなところまで、責任を持って配慮してこのパーティーを実施してくれたパーティー委員に話をうかがいました。

卒業パーティー
委員長
大宮 優一さん

卒業パーティー委員として去年から計画・準備をしてきましたが、当日が終わるまで、毎日不安で不安で仕方がありませんでした。１年生だった去年は、当日の手伝いスタッフとしてパーテイーに参加しましたが、今年は委員としてステージで発表する有志団体を募ったり、会場の京成ホテルミラマーレの担当者と打ち合わせをしたりなど、去年の委員がこれほどの苦労をしていたのかと痛感したものでした。

私自身は卒業パーティー自体をミスのないようミスのないようにと回すことで一杯いっぱいで、皆にとって卒業パーティーがどうだったのかはわかりませんでした。しかし、卒業パーティー後に、先生方や友人達に「すごく良かったよ」「お疲れ様」と言って頂き、結果的に、皆が楽しめ、その方々にそのような言葉をもらう事が出来ただけでも、卒業パーティー委員をした意味があったのかと思います。また、今回苦労したことは自分の力として吸収し、今後に生かしていければと思います。

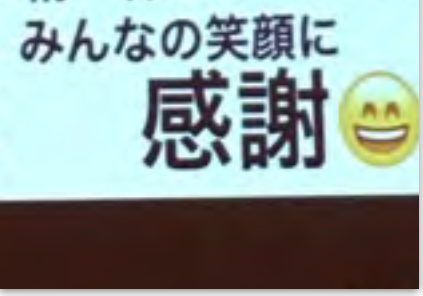
同じ卒業パーティー委員の皆や諸先生、職員、事務の方々などのご協力を頂き本当に心から感謝しています。また、今まで多くの方々が支えてくださっていたのだと卒業パーティーの仕事を通して改めて実感しました。

本当にこの様な機会を与えて頂き、沢山の方々と関わることができ、良かったです。ありがとうございました。

卒業パーティーでは、卒業生と教職員が2年間の思いを語っていました。初めはゼミごとに分かれて会話をしていましたが、時間が経つと他の教職員のいる場所に積極的に動いている姿がありました。取材を通して、卒業生が教職員に「ありがとうございました」と感謝の言葉を伝えている人が多く、一人ひとりの教職員との間にある信頼関係の深さを感じられました。また、会場に設置されたステージでは、サークルによる発表が多くあり、今までの活動成果ということもあり、キレのあるダンスや歌、さらにはバンドが会場を盛り上げていました★　（安部 あすか）

卒業生からは、「卒業することが寂しい」「仲間とバラバラの就職先で不安な気持ちがある」という別れが辛い声や、「これからは新しい人生のスタートとして頑張りたい」「ただただパーティーを楽しみたい」「明徳の仲間や先生方と学べて良かった」「楽しくてあっという間の２年間だった」「仲間と一緒に卒業できて嬉しい」などたくさんの喜びの声もありました。

私も、大好きな明徳の仲間たちと、明るい雰囲気の中で卒業していけたら良いなと思いました。（岩井 凛）



Meitoku Snap Graduation Party

編集後記　この１年をふりかえって

私は途中（vol.４）から月歩学歩学生委員になりました。月歩学歩では、学校の様子や保育に関することなど様々なことを話し合って考え、それをまとめ、記事に仕上げました。いざ編集に関わると毎回、委員で集まっては話し合いを重ねました。案を出したり原稿を考えるのが難しかったですが、出来上がった記事を見て達成感とやりがいが感じられました。一つのことについての考え方は幅広く、一つの記事として作りあげるのには時間がかかることに気づかされました！

１年生ということで、何もかもが初めての体験となった１年間でした。次年度からは、１年間で培ってきた活動を生かし、また新たな体験を楽しみにして２年生としてのスタートを踏み切りたいです！これからも、学校の様子や保育に関することを発信できるようにしたいです！（安部 あすか）

私は最初、月歩学歩学生委員には参加する学生が少なく、先生方が困っていたから「なら、私が参加しようかな」という気持ちで始めました。参加してみるととても楽しくて、学校で過ごす時間はそれまでよりも濃いものになりました。

委員は１ヶ月に何回か集まり、どんな記事を作るかについて話し合いをしました。記事の内容を考え、時にはそのページのレイアウトを自分達で考えることもありました。アイデアが出なくて大変なこともありましたが、毎月完成された月歩学歩をみる度に「今月もできた！」と達成感を味わっていました。

委員で集まった時、皆から時々出てくる面白い発言で笑うこともあり、本当にこの１年間を楽しく過ごして来ました。１年間私の話を聞いてくれた学生委員、今回もこれを作ってくれる先生方、そして今これを読んでいるあなた、１年間本当にありがとうございました！！（栗山 恵里奈）

この１年間、私は月歩学歩の活動を通して、特にインタビューをきっかけに、これまであまり話したことのない同学年の友人や、先輩と話すようになったり、皆がどんな保育者になりたいのか、どんな所で就職したいのかなど知ることができました。また、実習前には、私と同じ施設で実習を経験した先輩から話を聞き、アドバイスをもらうこともできました。こうした経験は、自分の為になったと感じています。（鍬田 春華）

私は、１年間の月歩学歩学生委員の活動を振り返って、あらためて委員になって良かったと思いました。委員になった時はまだ入学したばかりでしたが、４月の月歩学歩を読んで、私も頑張っている素敵な先輩方の姿や、私たちの楽しい学校生活を周りに伝えたいと思いました。

初めて学生へインタビューをして記事を作った時に、委員の私たちだけではなく、学生の皆と一緒に月歩学歩を作っているのだと実感しました。実習に関わる記事では、まず自分の体験を振り返って、感じたことや学んだことを読み手に伝わるように書きました。学生が共感できる気持ちもあったのではと思っています。秋には、再び学生にインタビューをして、様々な人から将来の夢の話が聞けました。普段関わりの少ない人が、どんな夢を持っているのかなんて知らなかったけれども、実は素敵な考えを持っているのだと知りました。

そして、１年間でも、記事を通して明徳の学生の姿をたくさんの人に伝えることが出来て、本当に良かったと思います。（岩井 凜）

４月から新しい道を歩み始める卒業生の皆さん、これからも自分の納得のいく一日一日を過ごされることを願っています。１年生の皆さん、あと１年、一緒に充実した日々にしていきましょう♪ さて、１年間をふりかえると、毎日がめまぐるしく過ぎていったように感じています。月歩学歩を通して学生の日々の姿を伝えられたのか、何ができて何ができなかったのか、委員でよく話し合い、来年度はより良い月歩学歩を皆さんのお手元にお届けしたいと思います。１年間ありがとうございました。来年度もよろしくお願いします。（鶴田 真二）

授業然り、学生生活然り、そしてこの月歩学歩然り…学生と一緒に何かをつくりあげたり、挑戦したり、考えたりできることは、喜びです。この３月に卒業した皆さんと共に行ってきたことは、私に様々なことを教えてくれました。そんな皆さんが一人ひとり輝ける未来を心から願っています。また、この月歩学歩も、学生委員と共に、どうしたら明徳での日々や学生の姿が生き生きと伝わるかを考えながら発行してきました。このような取り組みが出来たことも喜びです。そして、明徳で日々を過ごす学生の皆さんがいるからこそ発行できていると思っています。１年間、ありがとうございました！（田中 葵）

明徳の４月

3月31日(木) ▶ ガイダンス（２年生）

２日(土) ▶ 入学式

4日(月)
5日(火) ▶ ガイダンス
オリエンテーション(１年生)

23日(土) ▶ オープン・キャンパス

発行：千葉明徳短期大学

千葉市中央区南生実町1412
Tel:043-265-1613　Fax:043-265-1627
mail:tandai@chibameitoku.ac.jp
URL:http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html

★INFORMATION★

明徳HPの「めいたんブログ」でも、明徳の「今」を日々発信しています。　ぜひご覧ください。

編集

田中 葵
鶴田 真二

読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せください。